

地域と社会が支える 障害のある児童・生徒の自立と社会参加

—外部の教育資源を活用した特別支援学校を支援するしくみづくり(モデル事業)—

保護者や地域の人々が中心になって都立の特別支援学校(盲・ろう・養護学校)の児童・生徒を支援する取り組みが平成20年度から新たに始まりました。

都立特別支援学校は都内に53校設置され、障害のある児童・生徒が通っています。障害の種別や程度が様々であるため、土日や休日、放課後や夏休みなどの長期休業中に余暇を楽しむ機会が極めて限られています。日常的に接する人々も保護者や教員に限定されがちで、外部の様々な人々と接する機会があまりありません。

この取り組みは、こうした特別支援学校の児童・生徒が外部の人々と接しながら、様々な体験をしたり、学んだりする機会を提供するために、今年度から始められました。

今回は、地域の人々を中心にした支援組織を立ち上げ肢体不自由の児童・生徒の放課後活動の支援をしている都立城北特別支援学校(足立区)と近隣大学や地域のサークルなど、外部人材の活用などによって、キャリア教育支援や部活動などの放課後活動の支援をしている都立王子第二特別支援学校(北区)の取り組みを紹介します。

事例1 地域住民が放課後活動等を支援【都立城北特別支援学校】

◇都立城北特別支援学校(土井富夫校長 足立区南花畑)

足立区(一部地域を除く)と荒川区全域の肢体不自由の児童・生徒約150名が在学しています。小学部、中学部、高等部が設置されています。

都立城北特別支援学校では「城北サポーターズ」という地元足立区の地域の人々を中心にした支援団体が立ち上がりました。高校生から高齢者まで幅広いメンバーで構成され、現在約30名が登録しています。

この「城北サポーターズ」によって担われているのが、放課後活動への支援です。週に2日、午後1時50分に授業が終了する日の午後3時くらいまでの間、小学部や中学部の児童・生徒のトランポリンや散歩などの活動支援を行っています。また高等部の生徒の活動では、日本棋院に所属するプロ棋士の方や介護福祉士資格を持つオセロ協会の公認指導者の方に指導していただき方まで活動を行っています。

肢体不自由のある児童・生徒の活動には、施設のバリ

アフリーや移動手手段の介助などが必要なため、放課後や土日の活動がどうしても制約されがちですが、「城北サポーターズ」の支援によって、施設設備の整った特別支援学校を会場にした放課後活動が実現しています。

「城北サポーター



放課後活動の様子。
マンツーマン以上のサポートが必要です。

ズ」の方々が近隣地域に住んでいらっしゃることから、児童・生徒や保護者が地域とかかわる機会も増えて、交流も進んでいるそうです。

肢体不自由校の場合、障害に対する理解が図られにくく、ボランティアが集まりにくい状況があります。城北特別支援学校では、同校で開催している「ボランティア育成講座」を修了した方々に声をかけて、習得した知識と技術を生かしてサポーターになっていただいています。

肢体不自由のある児童・生徒のサポートは、マンツーマン以上のサポートが必要です。城北特別支援学校では、今後もボランティア育成講座などを通じてボランティアを育成し、活動の幅を広げていくことにしています。

城北サポーター募集チラシ